

フィクションだからこそ描ける、本当の世界。タブーに挑戦し続ける異端の映画監督。

「これから立ち入り禁止になりますッ」
「うちの庭のこっちは良くて、そっちはダメなんですか?」
トロント国際映画祭で最優秀アジア映画賞を受賞するなど、注目を集めた映画『希望の国』は、原発事故の現実を、20km圏の線引きによって翻弄される家族の姿を通して描いた。福島第一原発事故の数年後、架空の都市・長島県で再び原発事故が起きたという設定だが、モチーフはもちろん現実の福島だ。ドキュメンタリーが事実を過去形で伝えるのに対し、ドラマは被災者の目線に見る側を追いつめる。同じ国にいながら、得てしまう震災や原発事故の記憶、映画を見る者は、当事者に感情移入しながら、逃げようのない現実を追体験することになる。

脚 本・監督を務めたのは、豊川市の出身で豊橋東高校の卒業生である園子温さん。ベルリン国際映画祭でカッサリ賞を受賞した『愛のむきだし』

をはじめ、凄惨な暴力シーンや過激な性描写で知られ、自殺、宗教、連続殺人事件など、アンタッチャブルなテーマを数多く手掛けてきた。原発こそ、まさに日本最大のタブーである。今、世界がもっとも注目する日本の映画監督でありながら、原発となると映画会社は「クモの子を散らすように消えてしまえ」、資金集めも難航した。いまだ渦中にある園子に果敢にも切り込んだ作品は、昨年10月に公開され、地元豊橋でも今年3月に2週間にわたって上映され、話題を呼んだ。

同 じ頃、園監督は東三河を舞台にTVドラマの撮影を行っていた。3月3日にクランクインし、4月12日(金)深夜から放送が始まったドラマ24「みんな!エスパーだよ!」(テレビ東京系)である。公会堂前、水上ビル、ときわアーケード、のんはいパークなど、市内各所で撮影が行なわれたため、ロケ現場を目にした人も多かったろう。『希望の

国』からすると何とも極端な振り幅だが、思春期真っ只中の青少年の欲望を軽妙なタッチで描くコメディである。主演は一昨年のベネチア国際映画祭で日本人初の最優秀新人俳優賞を受賞したヒメミズの染谷将太さん。愛知・東三河の田舎町を舞台に、突然超能力に目覚めた高校生たちが、特殊能力を生かして「世界を救う!」ストーリーだ。でも、4話まで進んだ段階で、その能力はパンチや吸きなど、エッチな方向にしか生かされていない……

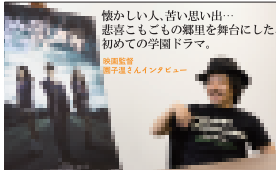
30 分ドラマでこれでもかと詰め込まれた思春期の煩悶や葛藤は、「ビュアな変態パワーは純愛につながる」(園子温)

に生きている』)のかもしれない。エロを融えて連にすがすがしい、との声も視聴者から上がっている。欲情に苛まれ、田んぼの畦道を叫びながら走る染谷君の姿は、もはや純文学の域といつていい。道徳岡作もエッセイの中で書いている。毎夜、真夜中に若い男の叫び声がする。「アッ、アッ、アッ、アッ」悲鳴とも絶叫ともつかぬその声は、昨日、今日、あるいは過去の自分の犯した恥ずかしいことが心に残り、居てもたってもいられなくなった者の叫びなのだ。そんな夜の経験がない者は、「友として語るに足りない」と遠藤周作は喝破した。

まだ観ていない人は、ぜひ今夜10時の放送からでも観てほしい。これまでの放送は番組の公式ホームページで配信されているから、出遅れた人も安心だ。ただ、家族揃っての視聴は、やはりお奨めがたいものがある。放送が深夜だけに、夜中に一人でこっそりと、が正しき青春の慣わしだろう。

▼プロフィール(そのしゅんさん)
1961年、豊川市生まれ。豊橋東高校在学中の映画人デビュー作『ジョーパン』を自らの短編映画として制作。1987年、『僕の花園』でPFFグランプリを受賞。1990年、ラッシュアップ自伝映画『ベルリン国際映画祭』で正式デビュー。以来、海外作品を次々と翻訳し、国内外に高い評価を得る。『愛のむきだし』で第69回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。園監督と共同監督作品『希望の国』で第69回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。園監督と共同監督作品『希望の国』で第69回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。園監督と共同監督作品『希望の国』で第69回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。

協賛・協賛企業
ローランド映像制作会社 Daiwa House. 富野洋武 中野実 伊豆モリタ 富野洋武 中野実 伊豆モリタ 富野洋武 中野実 伊豆モリタ



「ドラマ24『みんな!エスパーだよ!』が東三河ロケに決まった経緯を教えてください。」
僕も豊川出身ですが、たまたまプロデューサーの1人(森谷さん)も豊橋出身で分かって、ミーティングをする中で、いつか一緒に地元でやりたいよね、と盛り上がりました。もともと原作は大部分が舞台ですが(※原作は若杉公雄さんの戯作、園監督『ヤングガジン』連載中)、九州ロケは予算的に考えられないので、普通なら東京近郊で撮影すること、それも考えたよなあとというところ、せっかくなので園監督が作るんだからという思いが重なって、じゃあ早速これを東三河に持ってくるよ、と決まりました。

「郷里でのロケで良かった点、逆にやりづらかった点は?」
昔の担任の先生や同級生や親戚が考へて来たという話がある(くらくら)かたてたす(笑)。か中・高とも何もないことがなくて、とくに小中学生は毎日つづいてたかてたという話がある(くらくら)かたてたす(笑)。か中・高とも何もないことがなくて、とくに小中学生は毎日つづいてたかてたという話がある(くらくら)かたてたす(笑)。

って、非常に友好的でした。一番心配したのは、蓋を開けてエッチなドラマだと気づいて急にみんなが冷たくなるかなと思ったら、「楽しかったよ!」と言ってもらえてホッとした。理解があつて、園がゴカイ、さすが東三河だ(笑)。

「三河弁に名古屋弁が混ざっているように感じます。」
なんか三河弁が混入、という意見もありますが、僕はリアルな三河弁でいいと思うんです。違うと言うその人の三河弁すら、親の代は浜松にいたりとか、いろいろミックスされてるんです。みんな自分の三河弁が正しいと思いたいからで、それぞれちよつとだけ違ひ三河弁を喋っていて、生粋の三河弁だけを喋る奴なんかいない、というのが僕の結論です。森谷くんも親父さんが名古屋から来た人で、自分の三河弁の中に名古屋が混入しているのに気づくまでもなく今まで生きていた。そういうものだから言い出したらキリがない。そういうリアリズムよりも、ダニとかリカの響きに東京の人が食いついて、ネットに今週も面白かった(ダニ)とか書き込んだりするわけだから、面白ければいいんです。

「今後の見どころを教えてください。」
この後、僕は6、7話と10話から最終の12話までの監督を担当しています。ほかの監督は東三河と関係ありませんが、僕としてはかなり東三河を意識して作っています。後半になればなるほど東三河全体を使いつつ撮影しているのを、楽しんでると思います。

います。手帳花火を使う予定だったけど、いきなりだと許可が下りなくて断念しました。あと、たぶん12話の放映が終わった頃には、完全に観光地化する予定ですが、僕にとっては名所が豊橋の駅前にあつて、ネタばらしになってしまうので、まだ詳しくはいきません。

茂木健一郎は何だったんだろととか、栗原類は誰なんだとか、段々12話の伏線が解けていきます。徐々に明らかになって、最後のはずさくネタバレタルで、やっぱりSFだったんだということが分かってもらえると思います。

